

## ～ 林原賞 ～



那須 保友

## 略 歴

昭和32年1月29日生  
昭和56年3月 岡山大学医学部卒業  
昭和61年3月 岡山大学大学院医学研究科修了  
昭和61年4月 岡山大学医学部附属病院泌尿器科 医員  
昭和61年7月 社会保険広島市民病院泌尿器科 医員  
平成1年4月 財団法人積善会附属・十全総合病院泌尿器科 部長  
平成3年4月 岡山大学医学部附属病院泌尿器科 講師  
平成8年6月 文部省長期在外研究員（米国テキサス州ベイラー医科大学泌尿器科）  
平成9年4月 米国テキサス州ベイラー医科大学泌尿器科 客員研究員（平成10年6月まで）  
平成16年4月 岡山大学大学院医歯学総合研究科泌尿器病態学 助教授  
平成17年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 助教授  
平成19年4月 助教授は准教授となった  
現在に至る

## 研究論文内容要旨

岡山大学において実施した前立腺癌遺伝子治療臨床研究の結果を報告した論文である。対象となる被験者は、内分泌療法中に再燃してきた臨床的に遠隔転移を認めない局所再燃前立腺癌とした。まず Herpes Simplex Virus-thymidine kinase (HSV-tk) 遺伝子発現アデノウイルスベクターを単独で腫瘍内に直接投与し、その後ガンシクロビル (GCV) を全身投与した（自殺遺伝子治療）。本研究は2001年3月より第1例目の被験者の治療を開始し、8名のべ9症例の治療を実施し2006年8月に終了した。

9症例すべてにおいて重篤な副作用は認めなかった。アデノウイルスベクターの前立腺への注入は簡便かつ低侵襲に実施可能であった。ウイルスベクター投与後の抗アデノウイルス中和抗体価の上昇は、軽度でかつ一過性であった。ウイルスベクター投与後、48時間において採取した組織において mRNA レベルでの HSV-tk 遺伝子の発現が確認された。治療効果の指標としての腫瘍マーカーである PSA は、9例中6例（66.7%）において低下した。また、反復投与の有効性も確認した。

結論として局所再燃前立腺癌に対し、HSV-tk 遺伝子発現アデノウイルスベクターを単独で局所内投与し、その後 GCV を全身投与することの安全性および治療効果が確認された。